

⑤ 学力向上支援事業の推進

支援を必要とする児童を対象に学習支援員（大学生）を活用して、基礎学力の向上を図った。支援教科は国語・算数を中心とし、授業時間内での支援を行った。

(3) 教育課程外の取組

① 朝自習の充実

読み・書き・計算を中心とし、基礎・基本の定着を図る。

	月	水	木	金
実施内容	漢字	計算	マス計算(教師付き)	読書(隔週読み聞かせ)

② ボランティアによる読み聞かせ

児童に読書の楽しさを体験させ、読書意欲を高める活動の一つとして保護者や大学生による読み聞かせが行われた。児童の発達段階に配慮して本を選定し、金曜日の朝自習や木曜日の昼休みに実施した。

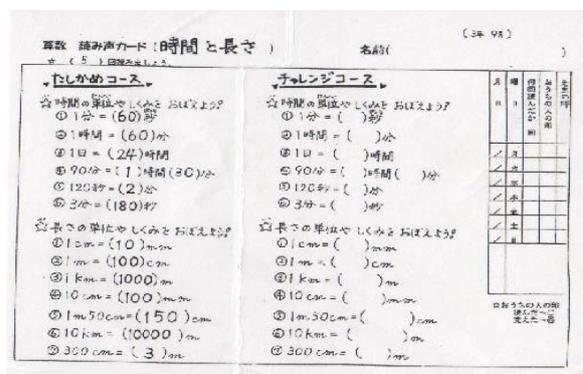
③ サマースクールの実施

希望する児童を対象に国語・算数を中心とした学習支援及び夏季休業中の課題解決の支援を行い、基礎学力の向上を図る。夏季休業中の7日間、大学生を支援員とし、午前中3時間行った。

(4) 保護者・家庭、地域との連携

① 家庭教育の充実

学年に応じた「家庭学習の手引き」を作成している。特に算数については、算数用語の意味や図形の定義、計算の仕方などをまとめた「算数読み声カード」を作成し毎月1週間家庭で基礎・基本の徹底に取り組んでもらっている。「たしかめコース(答えあり)」で覚え、「チャレンジコース(答えなし)」で確かめをするようにしている。



【算数読み声カード】

② 生活習慣の確立

生活リズムアンケートを実施し、3年前の結果と比較分析した。学校保健委員会や学級懇談会での話題とし、生活習慣を正す必要性について意識を高める機会とした。

③ 三者面談の充実

一人一人の学習の成果や課題を明らかにし、児童のもつよさをさらに伸ばすための情報交換とその対応策を考える機会として設定している。特に学習面は、テスト結果データをもとにして30分という時間でじっくり考える場としている。

④ 地区別教育懇談会の実施

学校・家庭・地域社会が課題や問題点等の共有化を図りながら、児童の健全育成に向けてそれぞれの役割を見つめなおす機会としている。

3 成果と課題（今後の取組を含む）

(1) 成果

- 算数科での取組により、図をかいて考えたり、考えを表現したりすることが定着し、思考力・表現力に向上が見られた。また、実態把握後の指導の焦点化を図ったことにより、児童が意欲的に取り組めるようになるとともに、授業がわかると実感することができた。
- 理科での取組により、18年度の結果では県平均を大きく上回ることができた。意識調査の「教科の理解度」も昨年度より1.2ポイント改善が見られた。
- 学校保健委員会や学級懇談会等で、生活習慣を正す必要性について保護者に意識してもらったことにより、テレビ視聴時間やゲームの時間が減っている。逆に、読書量は大きく伸びている。

(2) 課題

- 理科の「観察・実験の技能・表現」は、更に高められるよう目的意識を持った観察・実験の指導を続けたい。
- 意識調査によると、夕食を家族ととる児童が4.4ポイント減っている。今後家庭に「きちんとした生活リズムの確立」や「家族団らんの時間の確保」等考えてもらいたい。